

景気動向調査結果報告書

【やお景況レポート】

2025年 第Ⅱ・四半期(4～6月) VOL. 117

八尾商工会議所
八 尾 市

目 次

【調査実施の概要】	1
【調査結果の総括】	2
1. 製造業の景気動向	5
2. 非製造業の景気動向	9
3. 現在の景況感について	13
4. 2025 年夏季給与の支給状況について	15
5. 現在の景況感の原因を含めた自由回答	16

【 調 査 実 施 の 概 要 】

本調査は、地域経済の総合的な動向を把握し、産業振興のための基礎資料の作成及び経営者への情報提供を目的として実施している。1996年7月に第1回目の景気動向調査を実施し、今回（2025年10月実施）の調査で117回目となる。

調査対象事業所は、八尾市内に立地する従業員5人以上の事業所を母集団として、その中から、製造業650社、非製造業（建設業、卸売業、小売業、サービス業）350社の合計1,000社を無作為に抽出した。

調査方法は、調査票を郵送し、回収をFAXで行った。

今回の回収率は下表に示すとおり、製造業が20.5%、非製造業が21.7%、全体では20.9%である（表1～2参照）。

（注）2013年4～6月期調査より調査方法の変更を行った。2014年1～3月期調査より調査対象事業所数を削減した（従来1,300社→1,000社）。

表1.業種別回答状況

業種	発送数	回答数	回収率
金属製品	171	28	16.4%
機械器具	177	36	20.3%
その他の製造業	302	69	22.8%
製造業計	650	133	20.5%
建設業	120	20	16.7%
卸売業	53	13	24.5%
小売業	47	14	29.8%
サービス業	130	29	22.3%
非製造業計	350	76	21.7%
合計	1,000	209	20.9%

表2.規模別回答状況

規模別	製造業			非製造業			全体		
	発送数	回答数	回収率	発送数	回答数	回収率	発送数	回答数	回収率
5～19人	376	71	18.9%	230	47	20.4%	606	118	19.5%
20～49人	174	44	25.3%	77	15	19.5%	251	59	23.5%
50～99人	59	13	22.0%	29	9	31.0%	88	22	25.0%
100～299人	34	3	8.8%	13	5	38.5%	47	8	17.0%
300人以上	7	2	28.6%	1	0	0.0%	8	2	25.0%
合計	650	133	20.5%	350	76	21.7%	1,000	209	20.9%

【調査結果の総括】

～景気に改善傾向が見られるも、不確実性が高まる～

4～6 月期の八尾市の業況判断 DI¹は全産業で 12 と、前回調査から大幅に改善した。(2025 年 3 月=▲2→2025 年 6 月=12)。業種別にみると、製造業の DI は 8 となり、前回調査から 20 ポイントと大幅に改善した (3 月=▲12→6 月=8)。非製造業の DI は 19 となり、前回調査から悪化した (3 月=26→6 月=19)。

個人消費が伸び悩む中、6 月に入ると気温上昇によりエアコン等の季節需要の先取りがみられプラス要因となったほか、半導体関連も引き続き堅調だった。一方で、米価をはじめとする物価上昇は個人向けサービスを抑制し、4 月から続いているトランプ関税の影響や中東情勢の不透明感もマイナス要因となった。

今後の景気動向については、トランプ関税に関する日米交渉の行方が景況感を左右するカギとなる。プラス材料としては、インバウンド需要の継続や物価高対策、設備投資、大阪・関西万博が景気を下支えする一方で、為替動向や家計の節約志向はマイナス材料となろう。国内外における不確実性が高まるなかで、今後の景気は停滞傾向が続くと見込まれる。

図1. 業種別天気図(景気水準)

	2024年7～9月期		2024年10～12月期		2025年1～3月期		今回 2025年4～6月期		天気図 前回比較
全産業		3		10		▲ 2		12	
製造業		0		4		▲ 12		8	
金属製品		4		4		▲ 11		12	
機械器具		▲ 28		▲ 7		▲ 17		9	
その他の製造業		17		10		▲ 8		5	
非製造業		13		29		26		19	
建設業		24		38		31		31	
卸売業		0		33		0		0	
小売業		▲ 25		0		0		17	
サービス業		14		21		33		22	

※数値は業況判断DI。景況天気図で示した景況判断は、業況判断DI値によって判定。本設問は2012年4～6月期調査より開始しており、景況判断は暫定的に、DI値がプラス10以上であれば晴れ 、0～9は薄日 、▲10～▲11は曇り 、▲20～▲11は小雨 、▲21以下は雨 とした。図表における前回調査との比較の矢印マークは、景況天気図に基づくものであり、 が好転、 が横ばい、 が悪化を示す。

¹ DI は、各景況項目について、「良い、上昇、増加」などと答えた企業の割合から「悪い、下落、減少」などと答えた企業の割合を引いた数値。日銀短観や本調査における「業況判断DI」は「良い」から「悪い」を引いた「水準」調査であるのに対して、本調査における「業況判断DI」以外の項目（「生産額」、「出荷額」など）は前期・前年同期と比べての「増加」などから「減少」などを引いた「方向性」調査である。なお、本稿ではマイナスを「▲」と表している。

日銀短観²（2025年6月調査）における全国および近畿の業況判断DI（全産業・全規模）と比較してみる。まず、全国、近畿は横ばいとなり、八尾市はプラス14ポイントと大幅に改善した。八尾市においては、製造業は横ばい、非製造業は7ポイント悪化した。（図2～4）。

図2. 全産業・全規模の業況判断DI推移

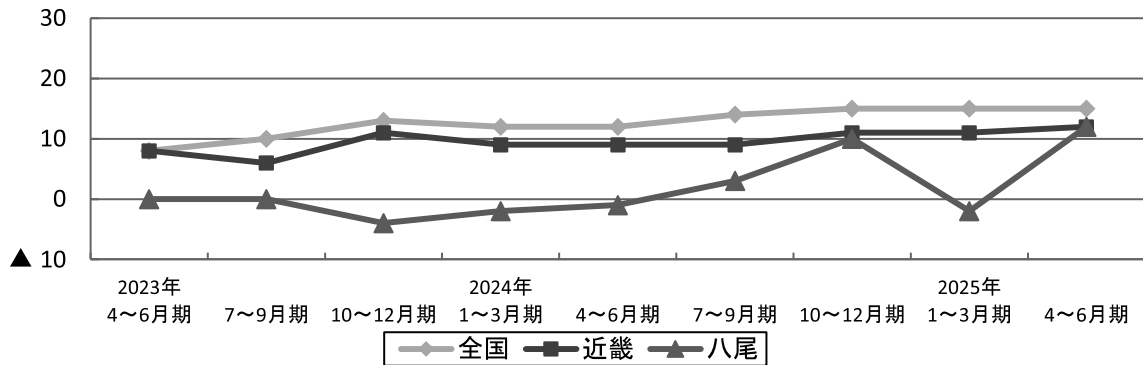


図3. 製造業・全規模の業況判断DI推移

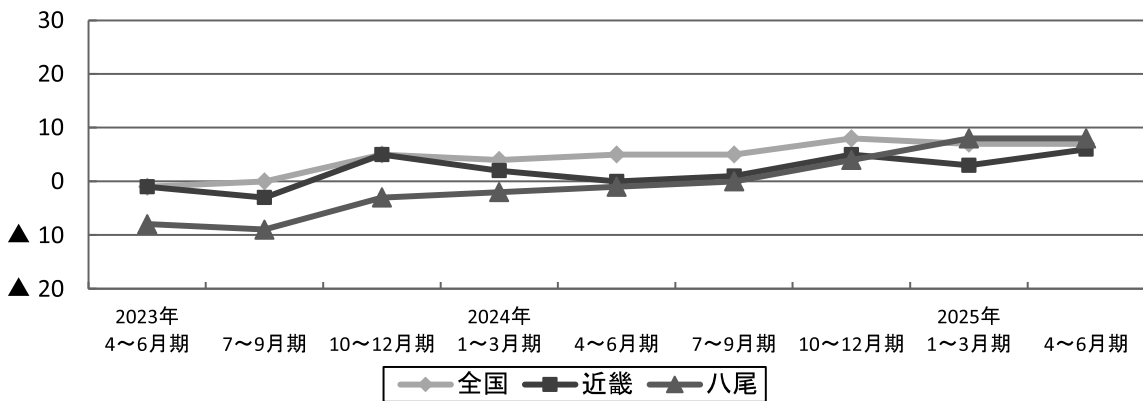
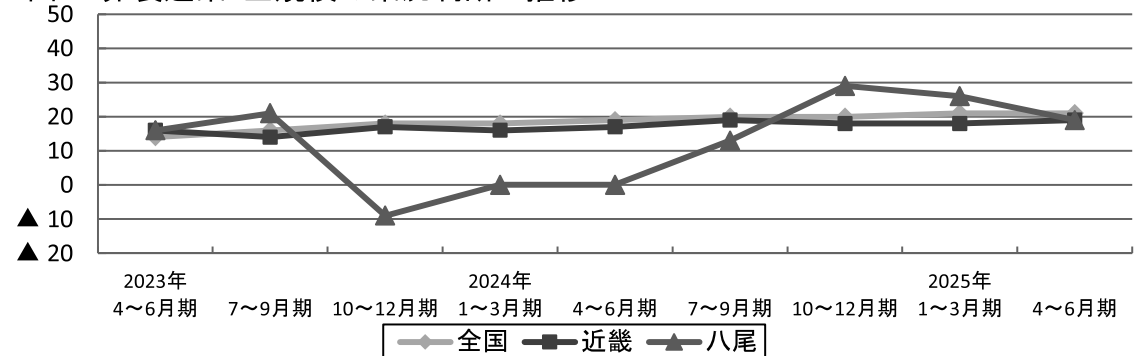


図4. 非製造業・全規模の業況判断DI推移



（資料）日本銀行大阪支店「全国企業短期経済観測調査-近畿地区-」

² 日銀短観は日本銀行「全国企業短期経済観測調査」の略。

景気の方角感を八尾市の各種前年同期比のDI³で確認すると（図5～6）、製造業は「生産額」、「設備投資額」は改善し、「製品販売価格」は横ばいとなった。また、非製造業においては「売上額」「販売先数・客数」「設備投資額」はいずれも改善し、中でも「売上額」はプラス30ポイントとなった。

図5. 製造業の各種「前年同期比」DI推移

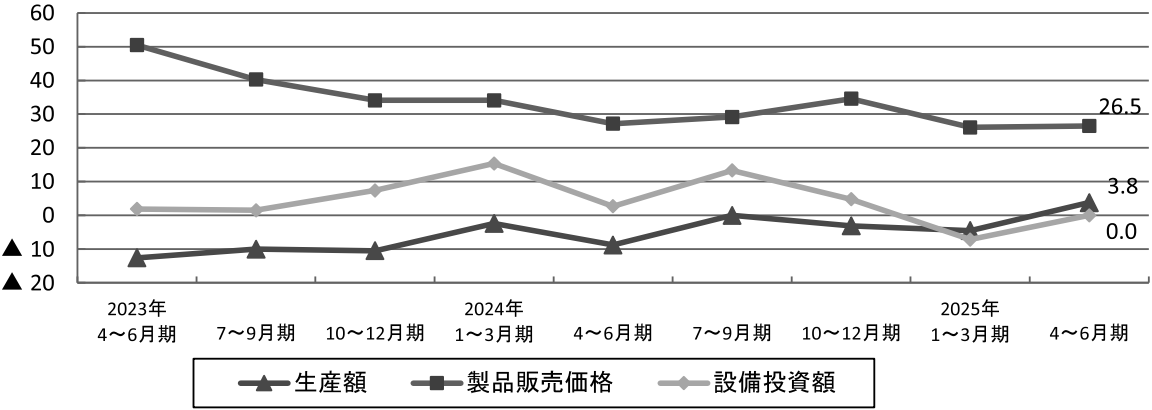
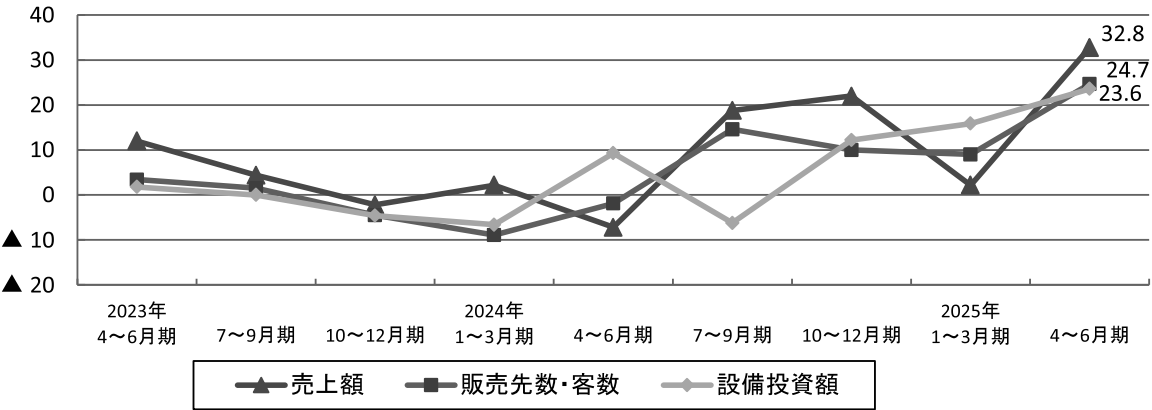


図6. 非製造業の各種「前年同期比」DI推移



³ 「前年同期比」DIは、各景況項目について、前年同期と比較して「良い、増加」などと答えた企業の割合から「悪い、減少」などと答えた企業の割合を引いた数値。

1. 製造業の景気動向

景況天気図は

(前回)



⇒

薄日

(今回)



【 生産額 】

製造業の2025年4～6月期における生産額DI（前期比、「増加」－「減少」）は▲2.2（▲はマイナスを表す、以下同様）と、マイナス幅が縮小した（前々回12.6→前回▲28.7→今回▲2.2）。

表3. 生産額(前期比)

業種		当期生産額は前期に比べて					
		回答数	構成比(%)			DI	前回DI
			増加	横這	減少		
	金属製品	28	21.4	53.6	25.0	▲ 3.6	▲ 38.0
	機械器具	36	25.0	47.2	27.8	▲ 2.8	▲ 34.2
	その他の製造業	69	18.8	60.9	20.3	▲ 1.5	▲ 18.2
	製造業計	133	21.1	55.6	23.3	▲ 2.2	▲ 28.7

前年同期と比べた生産額DIは3.8と、マイナスからプラスに転じた（前々回▲3.1→前回▲4.5→今回3.8）。

表4. 生産額(前年同期比)

業種		当期生産額は前年同期に比べて					
		回答数	構成比(%)			DI	前回DI
			増加	横這	減少		
	金属製品	28	46.4	28.6	25.0	21.4	▲ 19.4
	機械器具	36	30.6	44.4	25.0	5.6	▲ 13.8
	その他の製造業	68	23.5	48.5	27.9	▲ 4.4	13.6
	製造業計	132	30.3	43.2	26.5	3.8	▲ 4.5

【 出荷額 】

4～6月期の出荷額DI（前期比、「増加」－「減少」）は▲1.5と、マイナス幅が縮小した（前々回9.5→前回▲23.6→今回▲1.5）。業種別内訳をみると、金属製品でマイナスからプラスに転じ、機械器具、その他の製造業でマイナス幅が縮小した。

表5. 出荷額

業種		当期出荷額は前期に比べて					
		回答数	構成比(%)			DI	前回DI
			増加	横這	減少		
	金属製品	28	25.0	53.6	21.4	3.6	▲ 26.7
	機械器具	36	25.0	47.2	27.8	▲ 2.8	▲ 30.6
	その他の製造業	69	18.8	59.4	21.7	▲ 2.9	▲ 15.9
	製造業計	133	21.8	54.9	23.3	▲ 1.5	▲ 23.6

【製品在庫】

4～6月期の製品在庫DI（前期比、「不足」－「過剰」）は▲6.0と、マイナス（過剰超）幅は縮小した（前々回▲8.2→前回▲6.6→今回▲6.0）。業種別内訳をみると、金属製品でプラス幅が拡大し、機械器具でマイナス幅が拡大し、その他の製造業でマイナス幅が縮小した。

表6. 製品在庫

業種	当期製品在庫は前期に比べて					
	回答数	構成比(%)			DI	前回DI
		不足	適正	過剰		
金属製品	28	10.7	85.7	3.6	7.1	3.5
機械器具	36	2.8	86.1	11.1	▲ 8.3	▲ 2.8
その他の製造業	68	5.9	77.9	16.2	▲ 10.3	▲ 16.2
製造業計	132	6.1	81.8	12.1	▲ 6.0	▲ 6.6

【原材料仕入価格】

4～6月期の原材料仕入価格DI（前期比、「値上」－「値下」）は47.3と、プラス（値上超）幅は縮小した（前々回 59.0→前回 48.7→今回 47.3）。業種別内訳をみると、金属製品でプラス幅が拡大し、機械器具、その他の製造業でプラス幅が縮小した。

表7. 原材料仕入価格

業種	当期原材料仕入価格は前期に比べて					
	回答数	構成比(%)			DI	前回DI
		値上	横這	値下		
金属製品	27	51.9	44.4	3.7	48.2	29.1
機械器具	36	58.3	41.7	0.0	58.3	61.1
その他の製造業	68	41.2	58.8	0.0	41.2	52.2
製造業計	131	48.1	51.1	0.8	47.3	48.7

【製品販売価格】

4～6月期の製品販売価格DI（前期比、「値上」－「値下」）は27.8と、プラス（値上超）幅は拡大した（前々回 25.9→前回 18.9→今回 27.8）。業種別内訳をみると、金属製品で±0からプラスとなり、機械器具でプラス幅が拡大し、その他の製造業でプラス幅が縮小した。

表8. 製品販売価格(前期比)

業種	当期製品販売価格は前期に比べて					
	回答数	構成比(%)			DI	前回DI
		値上	横這	値下		
金属製品	28	35.7	60.7	3.6	32.1	0.0
機械器具	36	36.1	61.1	2.8	33.3	22.2
その他の製造業	69	23.2	76.8	0.0	23.2	29.5
製造業計	133	29.3	69.2	1.5	27.8	18.9

前年同期と比較した製品販売価格 DI においては 26.5 と、プラス（値上超）幅は拡大した（前々回 34.6→前回 26.1→今回 26.5）。

表9. 製品販売価格（前年同期比）

業種	当期製品販売価格は前年同期に比べて					
	回答数	構成比(%)			DI	前回DI
		値上	横這	値下		
金属製品	28	35.7	57.1	7.1	28.6	9.7
機械器具	36	36.1	61.1	2.8	33.3	30.6
その他の製造業	68	27.9	66.2	5.9	22.0	34.1
製造業計	132	31.8	62.9	5.3	26.5	26.1

【 採 算 状 況 】

4～6 月期の採算状況 DI（前期比、「好転」－「悪化」）は▲15.9 と、マイナス（悪化超）幅は縮小した（前々回▲16.6→前回▲27.2→今回▲15.9）。業種別内訳をみると、全ての業種でマイナス幅が縮小した。

表10. 採算状況

業種	当期採算状況は前期に比べて					
	回答数	構成比(%)			DI	前回DI
		好転	横這	悪化		
金属製品	28	14.3	50.0	35.7	▲ 21.4	▲ 25.8
機械器具	36	19.4	52.8	27.8	▲ 8.4	▲ 34.2
その他の製造業	68	10.3	61.8	27.9	▲ 17.6	▲ 22.7
製造業計	132	13.6	56.8	29.5	▲ 15.9	▲ 27.2

【 資 金 繰 り 】

4～6 月期の資金繰り DI（前期比、「好転」－「悪化」）は▲9.1 と、マイナス（悪化超）幅は縮小した（前々回▲12.7→前回▲13.6→今回▲9.1）。業種別内訳をみると、金属製品でマイナス幅が拡大し、機械器具、その他の製造業でマイナス幅が縮小した。

表11. 資金繰り

業種	当期資金繰りは前期に比べて					
	回答数	構成比(%)			DI	前回DI
		好転	横這	悪化		
金属製品	28	7.1	64.3	28.6	▲ 21.5	▲ 12.9
機械器具	36	8.3	77.8	13.9	▲ 5.6	▲ 22.8
その他の製造業	68	7.4	79.4	13.2	▲ 5.8	▲ 6.8
製造業計	132	7.6	75.8	16.7	▲ 9.1	▲ 13.6

【 受 注 状 況 】

4～6 月期の受注状況 DI（前期比、「好転」－「悪化」）は▲9.0 と、マイナス（悪化超）幅は縮小した（前々回▲18.1→前回▲36.0→今回▲9.0）。業種別内訳をみると、全ての業種でマイナス幅が縮小した。

表12. 受注状況

業種	当期受注状況は前期に比べて					
	回答数	構成比(%)			DI	前回DI
		好転	横這	悪化		
金属製品	28	14.3	60.7	25.0	▲ 10.7	▲ 45.1
機械器具	35	11.4	57.1	31.4	▲ 20.0	▲ 47.2
その他の製造業	69	17.4	62.3	20.3	▲ 2.9	▲ 20.4
製造業計	132	15.2	60.6	24.2	▲ 9.0	▲ 36.0

【 設 備 投 資 額 】

4～6 月期の設備投資額 DI（前年同期比、「増加」－「減少」）は0.0 と、マイナス（減少超）から±0 となった（前々回4.8→前回▲7.2→今回0.0）。業種別内訳をみると、金属製品でマイナスからプラスに転じ、機械器具でマイナス幅が縮小し、その他の製造業でプラス幅が縮小した。

表13.設備投資額

業種	当期設備投資額は前年同期に比べて					
	回答数	構成比(%)			DI	前回DI
		増加	横這	減少		
金属製品	27	29.6	55.6	14.8	14.8	▲ 9.7
機械器具	36	5.6	69.4	25.0	▲ 19.4	▲ 27.8
その他の製造業	68	19.1	66.2	14.7	4.4	11.3
製造業計	131	17.6	64.9	17.6	0.0	▲ 7.2

【向こう3カ月の景況】

4～6 月期における向こう3カ月の景況判断 DI（「好転」－「悪化」）は▲12.1 と、マイナス（悪化超）幅は縮小した（前々回▲20.6→前回▲34.2→今回▲12.1）。業種別内訳をみると、全ての業種でマイナス幅が縮小した。

表14.向こう3カ月の景況

業種	向こう3カ月の景況					
	回答数	構成比(%)			DI	前回DI
		好転	横這	悪化		
金属製品	28	14.3	64.3	21.4	▲ 7.1	▲ 45.2
機械器具	35	17.1	48.6	34.3	▲ 17.2	▲ 38.9
その他の製造業	69	15.9	56.5	27.5	▲ 11.6	▲ 22.7
製造業計	132	15.9	56.1	28.0	▲ 12.1	▲ 34.2

2. 非製造業の景気動向

景況天気図は

(前回)



⇒

晴れ

(今回)



建設業

景況天気図は

(前回)



⇒

晴れ

(今回)



4～6月期の状況を各種DI（前期比）でみると、売上額はプラス域からマイナス域に転じた。

工事引合件数も非常に大きくマイナスとなり、プラス域からマイナス域へと転じた。そのほか大半の指標が前月比でマイナスとなり、採算状況は0からマイナス域となった。

工事引合件数と受注単価の減少が、売上額に直結しているものと見られる。また、資材仕入価格は依然として高まる傾向がある一方、受注単価は上昇しておらず、十分な価格転嫁ができていない状況も見受けられる。

向こう3ヵ月の景況はプラス幅が縮小しており、今後の動向には注視が必要である。

前年同期比DIをみると、売上額は0からプラス域となった。一方、受注状況はプラス域からマイナス域に転じ、設備投資額のプラス幅は縮小した。

表15.建設業の景気動向

景気動向指標		回答数	構成比(%)			DI	前回DI
			増加 不足 値上 好転	横這 適正	減少 過剰 値下 悪化		
前期比	売上額	20	20.0	45.0	35.0	▲ 15.0	26.7
	資材仕入価格	20	60.0	35.0	5.0	55.0	66.7
	労務費	20	25.0	70.0	5.0	20.0	40.0
	工事引合件数	20	20.0	45.0	35.0	▲ 15.0	35.8
	受注単価	20	15.0	80.0	5.0	10.0	26.7
	採算状況	20	15.0	65.0	20.0	▲ 5.0	0.0
	資金繰り	20	20.0	75.0	5.0	15.0	6.7
	受注状況	20	25.0	50.0	25.0	0.0	20.0
向こう3ヵ月の景況		20	25.0	55.0	20.0	5.0	13.3
前年同期比	売上額	20	45.0	30.0	25.0	20.0	0.0
	受注状況	20	20.0	55.0	25.0	▲ 5.0	13.3
	設備投資額	20	25.0	60.0	15.0	10.0	20.0

卸売業

景況天気図は

(前回)



⇒

晴れ

(今回)



4～6月期の状況を各種DI（前期比）で見ると、売上額はマイナス域からプラス域に転じた。

売上額のほか、販売先数・客数、客単価もマイナス域からプラス域へ転じ、全指標がプラス域となった。

商品仕入価格が上昇する一方、商品販売価格への価格転嫁も行われている状況も見受けられるが、採算状況や資金繰りは横ばいとなっており、好転するには至っていない。

向こう3ヵ月の景況についてもマイナス域からプラス域に転じており、今後の景気に対する期待感は見受けられる。

前年同期比DIを見ると、売上額、設備投資額はプラス幅が拡大し、販売先数・客数は0からプラス域となった。

表16.卸売業の景気動向

景気動向指標		回答数	構成比(%)			DI	前回DI
			増加 不足 値上 好転	横這 適正	減少 過剰 値下 悪化		
前期比	売上額	13	38.5	30.8	30.8	7.7	▲ 40.0
	販売先数・客数	13	23.1	61.5	15.4	7.7	▲ 20.0
	客単価	13	23.1	69.2	7.7	15.4	▲ 20.0
	商品仕入価格	13	46.2	53.8	0.0	46.2	0.0
	商品在庫	13	15.4	76.9	7.7	7.7	0.0
	商品販売価格	13	38.5	61.5	0.0	38.5	0.0
	採算状況	13	15.4	69.2	15.4	0.0	0.0
	資金繰り	13	15.4	69.2	15.4	0.0	0.0
	粗利益率	13	30.8	61.5	7.7	23.1	20.0
	向こう3ヵ月の景況	12	25.0	66.7	8.3	16.7	▲ 40.0
前年同期比	売上額	12	41.7	41.7	16.7	25.0	20.0
	販売先数・客数	12	25.0	58.3	16.7	8.3	0.0
	設備投資額	11	36.4	54.5	9.1	27.3	20.0

小 売 業

景況天気図は

(前回)



⇒

薄日

(今回)



4～6 月期の状況を各種 DI（前期比）でみると、売上額のプラス幅はわずかに縮小した。

販売先数・客数、客単価、商品仕入価格を始め、多くの指標で 20 ポイント以上の非常に大きな変動があった。中でも販売先数・客数はマイナス域からプラス域に転じ、資金繰りはプラス域からマイナス域に転じた。

販売先数・客数は改善したものの、商品販売価格が十分に上昇せず、客単価も伸びなかったことで、売上額の増加にはつながらなかった状況が伺える。

向こう 3 ヶ月の景況は、プラス幅が大幅に縮小しており、注視が必要である。

前年同期比 DI をみると、売上額と販売先数・客数のプラス幅は拡大し、設備投資額のプラス幅は縮小した。

表17.小売業の景気動向

景 気 動 向 指 標		回答数	構成比(%)			DI	前回DI
			増加 不足 値上 好転	横這 適正	減少 過剰 値下 悪化		
前期比	売 上 額	14	35.7	50.0	14.3	21.4	25.0
	販 売 先 数・客 数	14	21.4	71.4	7.1	14.3	▲ 33.3
	客 単 価	14	14.3	85.7	0.0	14.3	66.7
	商 品 仕 入 価 格	14	50.0	50.0	0.0	50.0	100.0
	商 品 在 庫	14	0.0	85.7	14.3	▲ 14.3	0.0
	商 品 販 売 価 格	14	35.7	64.3	0.0	35.7	75.0
	採 算 状 況	14	14.3	64.3	21.4	▲ 7.1	0.0
	資 金 繰 り	14	14.3	57.1	28.6	▲ 14.3	25.0
	粗 利 益 率	14	28.6	42.9	28.6	0.0	▲ 25.0
	向こう3ヵ月の景況	14	21.4	64.3	14.3	7.1	25.0
前年同期比	売 上 額	14	35.7	64.3	0.0	35.7	25.0
	販 売 先 数・客 数	14	35.7	57.1	7.1	28.6	25.0
	設 備 投 資 額	14	35.7	64.3	0.0	35.7	50.0

サービス業

景況天気図は

(前回)



⇒

晴れ

(今回)



4～6月期の状況を各種DI（前期比）で見ると、売上額はプラス幅が拡大した。

客数のプラス幅が非常に大きく拡大したほか、客単価、採算状況がマイナス域からプラス域に転じたことで、全指標がプラス域となった。

客数と客単価の改善が売上額の拡大につながり、粗利益率は横ばいで止まっているものの、採算状況や資金繰りにも好影響となった状況が伺える。

向こう3ヵ月の景況もプラス幅が拡大しており、今後の景気に対する期待感が見受けられる。

前年同期比DIを見ると、売上額はマイナス域からプラス域へ転じた。客数と設備投資額はいずれも非常に大きくプラス幅が拡大した。

表18. サービス業の景気動向

景気動向指標		回答数	構成比(%)			DI	前回DI
			増加 不足 値上 好転	横這 適正	減少 過剰 値下 悪化		
前期比	売上額	27	48.1	37.0	14.8	33.3	25.0
	客数	27	51.9	33.3	14.8	37.1	5.0
	客単価	27	14.8	77.8	7.4	7.4	▲ 5.0
	採算状況	27	22.2	66.7	11.1	11.1	▲ 10.0
	資金繰り	28	28.6	57.1	14.3	14.3	10.0
	粗利益率	27	29.6	44.4	25.9	3.7	5.0
	向こう3ヵ月の景況	28	28.6	57.1	14.3	14.3	10.0
前年同期比	売上額	27	59.3	25.9	14.8	44.5	▲ 5.0
	客数	27	59.3	33.3	7.4	51.9	5.0
	設備投資額	27	33.3	59.3	7.4	25.9	5.0

3. 現在の景況感について

(1) 現在の景況感について

「現在の景況感」について尋ねたところ、全体（回答事業所数は188）では、「やや悪い」が35.1%と最も高くなった。続いて、「普通」が31.9%、「やや良い」が16.5%となった。

業種別では、製造業においても「やや悪い」と回答した企業が37.7%、次いで「普通」が30.3%、「やや良い」が15.6%となった。非製造業においては「普通」が34.8%、次いで「やや悪い」が30.3%、「やや良い」が18.2%となり、業種による差が見られた。

(1) 現在の景況感（業種別）

(%)

業種	全産業 〈188〉	製造業 〈122〉	非製造業 〈66〉
良い	5.3	4.1	7.6
やや良い	16.5	15.6	18.2
普通	31.9	30.3	34.8
やや悪い	35.1	37.7	30.3
悪い	11.2	12.3	9.1

(注)〈 〉内は回答事業所数

(1) 現在の景況感（従業員別）

(%)

従業員	全規模 〈188〉	5～19人 〈103〉	20～49人 〈56〉	50～99人 〈19〉	100人以上 〈10〉
良い	5.3	5.8	5.4	0.0	10.0
やや良い	16.5	18.4	10.7	26.3	10.0
普通	31.9	27.2	39.3	26.3	50.0
やや悪い	35.1	37.9	26.8	47.4	30.0
悪い	11.2	10.7	17.9	0.0	0.0

(注)〈 〉内は回答事業所数

(2) (1) で回答した景況感の原因について

「景況感の原因」について尋ねたところ、全体（回答事業所数は151）では、「需要の変動」が53.6%と最も高くなった。続いて、「物価高」が47.0%、「その他」が13.9%となった。

業種別では、製造業においても「需要の変動」と回答した企業が56.4%、次いで「物価高」が47.5%、「その他」が14.9%となった。非製造業においても「需要の変動」が48.0%、次いで「物価高」が46.0%、「金利負担」が16.0%となり、業種による差が見られた。

(2) 景況感の原因（業種別）

(%)

業種	全産業 〈151〉	製造業 〈101〉	非製造業 〈50〉
物価高	47.0	47.5	46.0
為替レート	6.6	5.9	8.0
海外仕入れ価格	4.0	4.0	4.0
金利負担	10.6	7.9	16.0
需要の変動	53.6	56.4	48.0
その他	13.9	14.9	12.0

（注）〈 〉内は回答事業所数

(2) 景況感の原因（従業員別）

(%)

従業員	全規模 〈151〉	5～19人 〈81〉	20～49人 〈41〉	50～99人 〈19〉	100人以上 〈10〉
物価高	47.0	49.4	56.1	26.3	30.0
為替レート	6.6	6.2	7.3	10.5	0.0
海外仕入れ価格	4.0	7.4	0.0	0.0	0.0
金利負担	10.6	8.6	17.1	5.3	10.0
需要の変動	53.6	43.2	65.9	68.4	60.0
その他	13.9	12.3	12.2	21.1	20.0

（注）〈 〉内は回答事業所数

4. 2025 年夏季賞与の支給状況について

(1) 2025 年夏季賞与の支給状況について

「2025 年夏季賞与の支給状況」について尋ねたところ、全体（回答事業所数は 173）では、「支給したが、支給額は前年と同等であった」が 41.6%と最も高くなった。続いて、「支給し、支給額は前年より増額となった」が 34.1%、「支給しなかった」が 13.3%となった。

業種別では、製造業においても「支給したが、支給額は前年と同等であった」と回答した企業が 40.0%、次いで「支給し、支給額は前年より増額となった」が 34.8%、「支給したが、支給額は前年より減額となった」が 14.8%となった。非製造業においても「支給したが、支給額は前年と同等であった」が 44.8%、次いで「支給し、支給額は前年より増額となった」が 32.8%、「支給しなかった」が 19.0%となり、業種による差が見られた。

(1) 2025 年夏季賞与の支給状況（業種別）

(%)

業種	全産業 〈173〉	製造業 〈115〉	非製造業 〈58〉
支給し、支給額は前年より増額となった	34.1	34.8	32.8
支給したが、支給額は前年と同等であった	41.6	40.0	44.8
支給したが、支給額は前年より減額となった	11.0	14.8	3.4
支給しなかった	13.3	10.4	19.0

(注)〈 〉内は回答事業所数

(1) 2025 年夏季賞与の支給状況（従業員別）

(%)

従業員	全規模 〈173〉	5～19人 〈90〉	20～49人 〈53〉	50～99人 〈20〉	100人以上 〈10〉
支給し、支給額は前年より増額となった	34.1	30.0	41.5	45.0	10.0
支給したが、支給額は前年と同等であった	41.6	44.4	35.8	40.0	50.0
支給したが、支給額は前年より減額となった	11.0	11.1	9.4	10.0	20.0
支給しなかった	13.3	14.4	13.2	5.0	20.0

(注)〈 〉内は回答事業所数

5. 現在の景況感の原因を含めた自由回答

現在の景況感の原因等について、企業から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

業種	規模	コメント内容
現在の景況感の原因		
製造業	A	生産量増加、出荷額増加。
製造業	A	人材不足による。
製造業	B	不況感による買い控え。
製造業	B	中国レアアース規制。
製造業	C	営業力のなさ。
卸売業	A	昨年11月に価格改定をしたわりに売上が変わらない。物量は少し減っているということ。
サービス業	B	異常気象。
サービス業	C	客数増。
その他		
製造業	A	中国からのダンピング輸入に対して政府が無策すぎる。トランプ関税についても同じ。
製造業	A	製造コストの上昇が止まらない。
小売業	C	コロナのあと、やっと足元が固まってきたので生産性の向上と第二次販売計画を考えている。 ①徹底的に地域一番を追求する。②東南アジアの要望に応える力を貸して下さい。
サービス業	A	DX推進投資を進めている。

(注1) 規模：A=5～19人、B=20～49人、C=50～99人、D=100～299人、E=300人以上

(注2) コメントはできるだけ原文のまま掲載しているが、一部にご意見の主旨を曲げることなく加筆・修正している場合がある。また、コメントは調査を実施した2025年10月時点のものである。

 八尾商工会議所

〒581-0006 八尾市清水町1-1-6 TEL (072)922-1181
<http://www.yaocci.or.jp>

 八尾市 魅力創造部産業政策課

〒581-0006 八尾市清水町1-1-6 TEL (072)924-3845
八尾商工会議所会館内
<http://www.city.yao.osaka.jp>